



教訓は未来に引き継ぐ

1月10日(金) 山岳部員岩木山遭難追悼集会

令和7年1月10日(金)、冬休みが明けて、授業始めのこの日、全校生徒と職員が第1体育館に集まり、今から61年前の昭和39年1月、岩木山遭難事故で亡くなられた当時1・2年生4名の山岳部員を追悼する集会を行いました。

ステージ中央に設置した祭壇に4人の遺影を飾り、岩木山の鳳鳴ヒュッテに設置されていた初代の鐘が4回打ち鳴らされる中、黙祷が行われ、なくなられた故人を偲びました。



深井校長は「亡くなったみなさんがそれぞれの志や夢を持って本校で過ごしていたことを、また自らの尊い命をもって鳴らした警鐘を忘れず、その教訓を引き継いでいきます」と4人に語りかけるように追悼のことばを延べ、続いて生徒会長の伊藤蓮人さんが「この追悼が、過去を振り返り未来を見据えるきっかけとなることを祈念いたします」とあいさつしました。

集会が終わったあと「祭壇に設営された遺影や『遭難誌』等を近くで見たい人は、ステージに上がって閲覧してみてください」と伝えると、たくさんの生徒が自らステージに登壇し、祭壇に向かって手を合わせていました。

この様子は、夕方のNHK「ニュースこまち」で紹介され、秋田県だけでなく青森県でも放送されました。



力強く演舞を披露

1月13日 応援団演舞会



ほくしか鹿鳴ホール中ホールにて応援団演舞会「第20回鳳凰山の下に」が開催されました。

第一部は、早稲田大コンバットマーチに始まり、応援の定番曲やキュートなミッキーマウスマーチなど、息のそろった演舞とダンスで披露しました。

第二部は野球部員も加勢し、野球応援の再現や、軽やかなチア曲メドレーも披露されました。

最後の校歌を歌い終えて、団長の成田涼さんは、創部80年目の節目の会を開催できた喜びと感謝をあいさつで伝え、大盛況の内に幕を閉じました。

努力と頑張りが成果に繋がる

1月17日 共通テスト激励会



大学入学共通テスト受験の激励会で副校長は198名の受験生に向けて「今までの努力や頑張りは嘘をつかない。頑張った自分に自信を持って。自分の実力が最大限に発揮できるように、十分な睡眠と、脳のエネルギー源＝ブドウ糖を作る食品をしっかりとること。」とあいさつし、学年主任は『受験あるある』

を引き合いに出しながら、「今まで頑張ってきたことを無駄にしないために、普段どおり落ちていて頑張る。」と激励しました。

3日畠山伊織さんは、「頑張った自分とみんなに拍手をしましょう！」と呼びかけ、自分たち受験生を『ふきのとう』に喩え、「これまで冬の間(受験勉強)じっと耐えて頑張ってきて、やっと春(共テ)が来ました。知識を武器に一杯頑張りましょう！」と決意表明しました。

最後は野球ユニフォーム姿の3年部有志職員3名がステージ上に並び、チャンスコール『さあ行きましょう!』で受験生の気持ちを盛り上げ、「強いぞ、鳳鳴!自分を信じて!」「元気があれば、何でもできる!」と力強くコールして締めくくりました。

